

【 復活のトロパリ 第2調 】



しせざるいのちよ、なんぢしにくだりし
死 生 命 爾 死 降
と き、かみのせいひかりにてぢご
時 神 性 光 地 獄
くをころせ り。しせしものをちかよ
殺 死 者 地 下
りふくかつせしめしとき、てんぐんみな
復 活 と 時 天 軍 皆
よびていえ り、いのちをたもうしゅ
呼 曰 生 命 賜 主
ハストわがkamiよ、こうえいはなんぢに
吾 神 光 榮 な 爾
き 歸 す。

【 日本の亜使徒聖ニコライのトロパリ 第4調 】



しととひとしくどうざなるもの、ちゅう
使徒 等 同 座 者 忠
じつにしてしんちなるハストスのえきしゃ、せい
實 神 智 役 者 聖
なるしんにえられたるふえ、ハストのあい
神 撰 笛 愛
にみちたるうつわ、わがくにのこう
満 器 我 國 光

しよ うしゃ 、 あ し と し ゆ き よ う せ い ニ コ ラ イ
照 者 亜 使 徒 主 教 聖

よ 、 なん ぢ の ぼ く ぐ ん の た め 、 お よ び
爾 羊 群 爲 及

ぜん せ か い の た め に 、 い の ち を た も う せ い
全 世 界 爲 生 命 賜 聖

さん しゃ に い の り た ま え 。
三 者 祈 給

【 日本の亜使徒聖ニコライのコンダク 第4調 】

こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん に き
光 榮 父 子 聖 神 歸

す 、

せ い せ い しゃ あ し と せ い ニ コ ラ イ よ 、 わ が
成 聖 者 亜 使 徒 聖 我

く に なん ぢ を た び び と お よ び い ほ う じ ん と う け
國 爾 旅 人 及 異 邦 人 受

し に 、 なん ぢ は は じ め わ が く に に お い て お の
爾 初 我 國 於 己

れ を が い ら い しゃ と し り た れ ど も 、 ハ イ ス の
外 來 者 知 れ ど も 、 ハ イ ス の

ひ か り と あ た た か き を な が し 、 なん ぢ の て
光 暖 流 爾 敵

きをぞくしんのことな爲し、かれらにか
 屬 神 子 爲 し、 彼 等 神
 みのおんちょうをあたえ、ハリストのきょうかいをたて
 恩 寵 與 教 會 建
 たり、いまこのきょうかいのためにより
 今 此 教 會 の 爲 に 祈
 たまえ、けだしわれらそのしよしはなん
 給 蓋 我 等 其 諸 子 爾
 ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
 呼 我 善 牧 者 慶
 べよ。

【 復活のコンダク 第2調 】

いまもいつもよよに、アミン。
 今 何 時 世 世
 ぜんのかのきゅうせいしゅよ、なんぢはかよりふ
 全 能 救 世 主 爾 墓 復
 くかつせしに、ぢごくはきせきをみて
 活 地 獄 奇 蹟 見
 おののき、ししゃはおき、ぞうぶ
 慄 の 死 者 起 造 物
 つはみてなんぢとともによろこび、アダムは
 見 爾 偕 喜

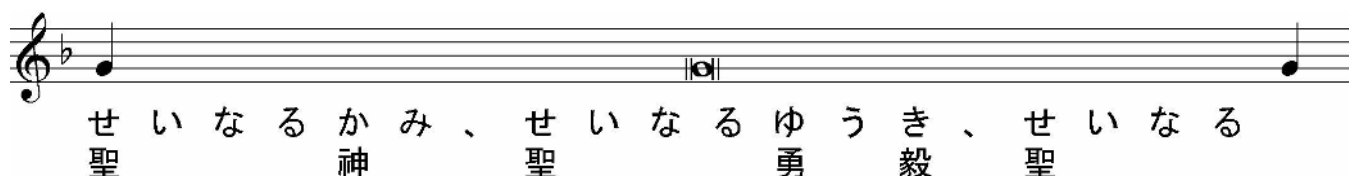


司祭) (黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有
となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾
り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行なう者を棄てずして、其救の爲に
つうかい た われらいや ふとう なんぢ しょぼく こ とき おい なんぢ
痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が
せい さいだん こうえい まえ た なんぢ とうぜん ふくはいさんえい たてまつ た
聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる
もの しゅさい なんぢみづか われらざいにん くち せいさん うた う なんぢ
者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の
じんじ もつ われら のぞ われら およ じゅう じゅう つみ ゆる わ たましい
仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈
からだ せい われら しょうがいぜんこう もつ なんぢ つと え たま せい
と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖
しょうしんぢょ こせい なんぢ よろこび な しょうせいじん きとう よ
なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) けだしわ かみ なんぢ せい われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま いつ よよ
蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世
に、



【 聖三祝文 】





じょう せいの ものよ、 われらを あわれめ
常 生 者 我 等 憐

によ。 せいなる かみ、 せいなる ゆう き、 せい
聖 神 聖 勇 毅 聖

なるじょう せいの ものよ、 われらを あわれ
常 生 者 我 等 憐

め よ。 せいなる かみ、 せいなる ゆう き、
聖 神 聖 勇 毅

せいなるじょう せい の ものよ、 われらを あわ
常 生 者 我 等 憐

れ め よ。 こう えい は ち ち と こ と せい しん
光 榮 父 子 聖 神

に き す、 い ま も い つ も よ よ に、 ア ミ ン。
歸 今 何 時 世 世

せいなるじょう せい の ものよ、 われらを あわ
常 生 者 我 等 憐

れ め よ。 せいなる かみ、 せいなる ゆう
聖 神 聖 勇

き、 せいなるじょう せい の ものよ、 われらを
毅 聖 常 生 者 我 等 憐

あわれ め よ。

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、)

【 プロキメン 提綱 主日第2調 】

司祭) ^{つつし} 慎 ^き みて聴くべし、^{しゅうじん} 衆 ^{へいあん} 人に平安、

誦經) ^{なんぢ} 爾 ^{しん} の神にも、

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{プロキメン} プロキメン、^{しゅ} 主は、^わ 我が ^{ちから} 力、^わ 我が ^{うた} 歌なり、^{かれ} 彼は ^わ 我が ^{すくい} 救となれり、



誦經) ^{しゅ} 主は ^{きび} 厳しく ^{われ} 我を ^{ばつ} 罰したれども、^{われ} 我を ^し 死に ^{わた} 付さざりき、



誦經) ^{しゅ} 主は、^わ 我が ^{ちから} 力、^わ 我が ^{うた} 歌なり、



【 アポストロス 使徒經 233 端 エフェス書 6 章 10 節～17 節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと} 聖使徒 ^{じん} パヴェルが ^{たつ} エフェス人 ^{しよ} に ^{よみ} 達する書の讀、

司祭) ^{つつし} 謹 ^き みて聴くべし、

誦經) ^{けいてい} 兄 弟よ、^{しゅおよ} 主 ^{そのけん} 及び其 ^{ちから} 權の ^よ 力に ^{けんご} 頼りて ^{かみ} 堅固 ^{ぜんび} になれ。神の ^{ぶぐ} 全備の ^き 武具を ^{なんぢら} 衣よ、爾等 ^{あく} が惡

^ま 魔の ^{はかりごと} 奸計 ^{ふせ} を ^え 禦ぐ ^{ため} を得ん ^{けだしわれら} 爲なり、蓋 ^{たたかい} 我等の ^{けつにく} 戰は ^{おい} 血肉に ^{あら} 於て ^{すなわちしゅ} するに非ず、乃 ^{しよ} 首

^{りょう} 領に ^{おい} 於てし、^{けんぺい} 權柄に ^{おい} 於てし、^こ 此の ^よ 世の ^{くらやみ} 暗昧の ^{せくん} 世君に ^{おい} 於てし、^{てんくう} 天 空に ^あ 在る ^{きょうあく} 凶 惡の ^{しよ} 諸

^{しん おい}神に^{これ よ}於てするなり。此に^{かみ ぜんび}因りて神の全備の^{ぶぐ と}武具を取れ、^{あ ひ おい ふせぎ な}悪しき日に於て^{およそ}禦を爲し、凡の
^{こと じょうじゅ}事を^{た え ため}成就して、立つを得ん爲なり。故に^{ゆえ た}立ちて、^{しんじつ なんぢら こし つか ぎ よろい}眞實を爾等の腰に束ね、義の甲を
^{き わへい ふくいん}衣、和平を福音する^{よび もつ あし くつ}預備を以て足に履はき、^{さら しん たて と}更に信の盾を執れ、^{これ もつ あくてき ことごと}之を以て惡敵の悉
^{ひ や け え}くの火箭を滅すを得ん、又^{またすくい かぶと およ しん つるぎ}救の冑、及び神の劍、^{すなわちかみ ことば と}即神の言を取れ。

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ、主にあつて、その偉大な力によって、強くなりなさい。悪魔の策略に
 対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。わたしたちの戦いは、血肉に対するものではな
 く、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。それ
 だから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身に
 つけなさい。すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当を胸につけ、平和の福音の備えを足に
 はき、その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことがで
 きるであろう。また、救のかぶとをかぶり、御霊の劍、すなわち、神の言を取りなさい。

【 アリルイヤ 主日第2調 】

司祭) ^{なんぢ へいあん}爾に平安、

誦經) ^{なんぢ しん}爾の神にも、

司祭) ^{えいち}睿智、

誦經) アリルイヤ、



誦經) ^{ねが しゅ うれい ひ おい なんぢ き}願わくは主は憂の日に於て爾に^{かみ な なんぢ ふせ まも}聴き、^{いアコフ}の神の名は爾を^{まも}扨ぎ衛らん、



誦經) ^{しゅ おう すく またわれら なんぢ よ とき われら き たま} 主よ、王を救え、又我等が爾に呼ばん時、我等に聴き給え、



司祭) (^{ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん} 黙誦: 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念
^{め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ おそ} の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を畏る
^{おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ おも か おこな} 畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所を思い且つ行
^{ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ なんぢ わ たましい からだ} いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、爾は我が靈と體
^{こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん いのち ほどこ なんぢ しん} との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに
^{こうえい けん いま いつ よよ} 光榮を獻ず、今も何時も世に、アミン。)

【 エヴァンゲリオン 福音經 ルカ福音書 91 端 18 章 18～27 節 】

司祭) ^{えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん} 睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、



司祭) ^{でん せいふくいんけい よみ} ルカ傳の聖福音經の讀、



司祭) ^{つつし き か とときあるひと つ かれ こころ と い ぜん し} 謹みて聴くべし、彼の時或人イイススに就き、彼を試みて、問いて曰えり、善なる師
^{われえいえん いのち つ ため なに な かれ い なんぢ なん われ ぜん} よ、我永遠の生命を嗣がん爲に何を爲すべきか。イイスス彼に謂えり、爾は何ぞ我を善
^{とな ひとりかみ ほか ぜん もの なんぢ いましめ し いん なか ころ なか} と稱うる、獨神より外に善なる者なし。爾は誠を識れり、淫する母れ、殺す母れ、
^{ぬす なか もうしょう なか なんぢ ふぼ うやま かれい われいとけな みなこれ まも} 竊む母れ、妄證する母れ、爾の父母を敬え。彼曰えり、我幼きより皆之を守れ

り。イスス^{これ き}之を聞きて、彼^{かれ い}に謂えり、爾^{なんぢ}に猶^{なお}一^{ひと}の足らざる事あり、^{こと}悉^{ことごと}く爾^{なんぢ}の所^{しょ}
 有^{ゆう}を^う售りて、貧^{ひん}者^{しゃ}に^{ほど}施^せ、然^{しか}らば^{たから}財^{てん}を天^{たも}に有^{かつ}たん、且^{かつ}來^{われ}りて我^{した}に^{かれ}從^{これ}え。彼^き之^きを聞
 きて、^{はなはだ}甚^{うれ}憂^おいたり、巨^とに富める故なり。イスス其^{その}甚^{はなはだ}憂^{うれ}いたるを見て曰えり、富^{とみ}を
 有^{たも}つ者の神^{もの}の國^{かみ}に入^{くに}るは難^いき哉。蓋^{かた}駱^{かな}駝^{けだ}が針^{しら}の孔^{くだ}を穿^{はり}るは、富める者が神^{あな}の國^{とお}に入^と
 るより易^{もの}し。之^{かみ}を聞^{くに}きし者^い曰えり、然^とらば誰^{もの}か能^{かみ}く救^{よく}われん。彼^い曰えり、人^{ひと}には能^{よく}せざる
 所^{ところ}、神^{かみ}には能^{よく}すなり。

(比較用 口語訳) ある役人がイエスに尋ねた、「よき師よ、何をしたら永遠の生命が受けられましよう
 か」。イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。いまし
 めはあなたの知っているとおりである、『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証を立てるな、父と母とを敬
 え』。すると彼は言った、「それらのことはみな、小さい時から守っております」。イエスはこれを聞いて
 言われた、「あなたのする事がまだ一つ残っている。持っているものをみな売り払って、貧しい人々に
 分けてやりなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。彼は
 この言葉を聞いて非常に悲しんだ。大金持であったからである。イエスは彼の様子を見て言われた、「財
 産のある者が神の国にはいるのはなんとむずかしいことであろう。富んでいる者が神の国にはいるより
 は、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」。これを聞いた人々が、「それでは、だれが救われる
 ことができるのですか」と尋ねると、イエスは言われた、「人にはできない事も、神にはできる」。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえいは
 主、光、榮、爾、歸、光、榮
 はなんぢにきす。
 爾、歸

※ 聖体礼儀③ (金口イオアン) へ